

医療を受ける子どもに対するプレパレーションの文献概観 —2002年～2005年の文献を通して—

渡部 真紀・高橋恵美子

概 要

本論では、日本のプレパレーションの現状について、学術論文を対象に内容の考察を行った。課題を明らかにし、今後の医療者の関わりについて検討した。

現在日本でもプレパレーションの理念が普及し、医療機関などにおいて研究されている。しかし、狭義のプレパレーションまでの研究が多く、ディストラクションや処置後の遊びの研究は少ないため、意識的にこれらの関わりを行っていくことが課題である。

幼児期後半を対象とした研究が多いが、倫理的観点から、全年齢においてプレパレーションを行うことが望まれる。幼児期前半以前を対象としたプレパレーションが今後の課題となる。また、特にディストラクションツールの開発が必要である。

キーワード：プレパレーション, ディストラクション, 処置後の遊び, プレパレーションツール, 小児看護

められているのかを検討する。

I. はじめに

近年、小児医療の現場においてプレパレーションの必要性が言われるようになった。この数年は、プレパレーションに関する文献や研究が増えており、臨床現場においても学習会や研修会などが盛んに行われ、その理念は広がりを見せている。

子どもに医療処置を行う際の倫理的配慮や基本的人権の尊重を改めて問い、子どもが安心して治療を受けられるよう、現場では試行錯誤している状況である。医療処置の多くは、不快感があり心地良いものではないので、子どもには事前に言わない方がよいと考える向きがある。しかし、それは裏切り行為であり、子どもは理解力に応じて納得するもの(蝦名,2006)という考えが、プレパレーションを通じて、現場でも浸透してきている。

本論では、国内における小児へのプレパレーションの現状について、学術論文を対象に内容を考察する。それをふまえ、課題を明らかにしたうえで、今後どのような関わりが看護師に求

II. 用語の定義

プレパレーション：医療を受けるとき、子どもが感じる様々な不安や恐怖感を、医療者がウソをつかないで、子どもがわかる方法で説明し、子どもの心理的混乱を予防したり緩和したりする。これによって、子どもが潜在的に持っている対処能力を引き出し、子どもががんばれたと実感できるように関わり、子どもの健全な心の発育を支援すること(蝦名,2005)

III. 研究方法

1. 研究期間

2006年6月から9月

2. 文献検索方法

以下の手順で抽出された文献を、本研究の分析対象文献とした。尚、文献検索実施は2006年6月に行った。

1) 医学中央雑誌Webで「プリパレーション」「プレパレーション」「小児」のキーワード